

[公演ノート]

## アメリカ桜祭り公演10周年記録

—玉川大学芸術学部和太鼓・舞踊海外公演の歴史—

### A Report on the 10<sup>th</sup> Anniversary of the Cherry Blossom Festival Performance in the U.S.A.

—The History of Tamagawa University's Department of Arts Overseas Performances of Taiko Drumming and Dance—

小山 正

Tadashi Koyama

〈抄 録〉

玉川大学芸術学部では、10年間アメリカ・ワシントンD.C.及びフィラデルフィアでの桜祭り公演を中心にアメリカで和太鼓と創作民族舞踊の公演を行っています。今回、玉川学園および玉川大学における海外公演（演劇・舞踊に特化）の軌跡についてのレポートです。

Abstract

This essay is about the history of Tamagawa University's overseas performances focusing on the American Cherry Blossom Festival performances.

## 1. 玉川学園・玉川大学の演劇舞踊公演の軌跡

### 1.1. 海外公演のはじまり

・1961年メキシコ・アメリカ公演（太平洋戦争後、初の海外公演）

参加者：小学生4名、中学生5名、高校生9名、大学生10名、卒業生2名、引率教員9名、39名。  
公演都市：メキシコ3都市、アメリカ2都市の5都市、計17公演。

玉川学園および玉川大学の海外公演は、1961年のメキシコ・アメリカ公演から始まりました。

発端は、玉川学園創立者小原國芳が日本私立大学代表として、国際大学協会総会に出席した折、メキシコ教育事情視察のためメキシコ各地を歴訪し、ユカタン半島にあるメリダ大学を訪問したことに始まります。メリダ大学は1919年に野口英世博士が黄熱病研究の為に滞在した場所です。小原はその野口博士の遺徳と功績を讃えるべく、野口博士の記念像を玉川学園から寄贈しました。その事で大きな反響を呼び、ユカタン州知事より記念像の除幕式に玉川学園職員および学生をメリダ大学に招聘する手紙が届きました。そして、添え書きに除幕式の後「日本の日」という特別行事を企画し、学生による日本文化の紹介を希望されました。

この時の小原國芳による公演プログラムのメッセージ「メキシコ国民のみなさまへ」の一節を記載

します。

この度、日本の偉人野口英世博士の不思議な導きによって、みなさま方にお目にかかれるようになりましたことを、大変嬉しく思います。私はかつて、私の学校の学生達を中心にして、アメリカへ四度、ヨーロッパに一度、修学旅行させたことがあります。

若い時代によその国々を訪問し、その国土や人々に接する事は、広く人類を愛し、平和を欲する人に育てるために、最も良い方法であると信ずるからであります。学生達を宇宙時代にふさわしい人間に育てる為には「地球はわれらの故郷である」という事を、心から納得させたいと思います。学校教育というものは、決して教室の中だけで行われるものではありません。地球上、宇宙内全てが教育の場所であると私は信じていますから、この度の試みは、ただ単に教室をメキシコに移動させたに過ぎないのです。また私は、自分の国を離れることによって、自分の国の良さを再発見し、また欠点をも知る事が出来るとも信じています。

日本はこの百年あまりの間にめざましく発展し、西欧化されました。それは近代国家として当然のことながら、日本文化の伝統的な美しさまで、失ってしまう事には賛成出来ません。連れてきました学生達の芸能は、近代日本の今日の生活とは、必ずしも一致していませんが、その精神は日本人の心の中に、決して失わせたくないものなのです。私の教育は、広く世界の文化を吸収すると同時に、日本精神を堅持した人間を育てることでもあります。(後略)

小原は、学生による海外公演を10年以上も前から考えていましたが、終戦後15年しか経っていなかった時代には、海外公演など想像もつかなかった状態でした。そしていざ海外に進出するとなった為、試行錯誤をつづけ、研鑽し挑んだと書いてあります。結果として、三つの確たる信念をあげています。

第一に、国際親善の為には、潑刺たる青少年達が出かけて行って、日本の生気を伝え、かの国の真実を素直に感じ取ってくる事の方が、代議士諸公や、よぼよぼジイサマが行くよりも、はるかに世界の架け橋として有意義なりと信ずる事。

第二に、最近よく行われている歌舞伎や能狂言など無形文化財的日本文化の紹介が、はたしてどれだけの外国人にアピールしているか……歌右衛門氏の女形も良からうが、それよりも現代の青少年に素直に継承されている日本的なものを、外国の若い人たちに率直に見てもらえばそこに必ず共感があるはず。鎖国的な日本趣味でなく、人類共通の連帯感を発見出来るものは、若い我々の感覚においてのみ可能であると信ずる事。

第三に、学生らしい清純さ、真摯さこそ我らの生命。高度の芸術性や技術はともかく、いろいろな年齢の日本の青少年達が、大勢はるばる出かけて行って、一生懸命、元気一杯何かやれば、何処の国の人だって素直に感動してくれるはず。

以上三つの点をふまえて立つとき、ここ十数年一いや開校以来蓄積してきた我々の持てる力を、今こそ存分に発揮出来る時だと思えます。(『メキシコ親善旅行記』)

## 1.2. メキシコ・アメリカ以降の海外公演

### ・1968年 ヨーロッパ公演

参加者：中学生1名、大学生21名、引率教員7名、総勢29名。

公演都市：アラスカ1都市、デンマーク5都市、西ドイツ9都市、スイス4都市、イギリス1都市の

20都市、計23公演。

第2回国際青年演劇祭の招待を受け、4月20日から6月21日の約2ヶ月間。

・1972年 ギリシャ公演

参加者：小学生1名、高校生3名、大学生27名、引率教員9名、総勢40名。

公演都市：南ギリシャ7都市、計11公演。

3回目の海外公演は、ギリシャサマーフェスティバルの一つとして8月11日から9月5日までの約4週間。

・1978年 アメリカ・カナダ公演

参加者：高校生2名、大学生55名、引率教員17名、総勢74名。

公演都市：アメリカ3都市、カナダ3都市の6都市、計16公演。

玉川学園創立50周年記念行事の一環として3月15日から4月17日の約4週間。

・1981年 イギリス公演

参加者：学生9名、引率教員6名、総勢15名。

公演都市：イギリス1都市、スコットランド1都市の2都市、計13回公演。

ロンドン国際演劇祭参加およびエジンバラ・フェスティバル・フリンジでの公演です。この公演では、「べっかんこ鬼」という演目を狂言形式/歌舞伎形式にて上演。エジンバラフリンジ公演参加の約400団体の中から6 of the best on the Fringeに選ばれました。

・1986年 アメリカ・カナダ公演

8月26日から9月20日の26日間

参加者：学生17名、引率教員6名、総勢23名。

公演都市：カナダ4都市、アメリカ2都市の6都市、計17回公演。

新演出の『べっかんこ鬼』。バンクーバー万国博覧会の日本ブース、ダンカン、ナナイモ、ポート・アルバーニ、バンクーバー、シアトル、タコマでの公演。

・1989年 アメリカ・カナダ公演

8月14日から9月20日（38日間）

参加者：小学生1名、学生36名、引率教員10名、総勢47名。

公演都市：アメリカ5都市、カナダ2都市の7都市、計20公演。

初めて東海岸のニューヨークやノースキャロライナでの公演、さらにシアトル、タコマにて公演。

以上の公演が玉川学園・玉川大学あげての大きな海外公演として実現されたものです。

### 1.3. 新しい海外公演形態の模索

90年代以降、時代の変化と共に、留学など学生が個人で海外へ行く事が容易に出来るようになり、また、現地の企画/主催などの事業に公演として参加が出来るようにもなりました。そこで、これまでとは違った海外公演の形を考案し、公演だけでなく、学生が現地の民俗舞踊を研修するなど、公演と研修を合体させたツアーや、ワークショップ等で玉川の学生と現地の学生同士の交流を目的とする海外公演の形態を企画しました。

私は、1987年9月から12月までの4ヶ月間、シアトル・コーレッシュカレッジとタコマ・コミュニティーカレッジからの招聘により講師として両大学に赴きました。そして、これらの大学と学生達との交流の基盤が出来上がり、アメリカ人学生による日本舞踊公演を開催しました。この様な交流をきっかけに、後に玉川大学継続学習センターの企画として、「日本民俗舞踊公演と西海岸の旅」を90年、95年、98年にアメリカ・ワシントン州・シアトル/タコマにおいて実施しました。これは、日本での稽古、現地で本番を行い、その後小旅行をする研修でした。

97年には、同じく継続センター主催にて、インドネシア・バリ島で「日本民俗舞踊公演とバリ舞踊研修の旅」を行いました。これもウブドにあるプリアタン王宮との繋がりやタガス村、そしてバリ大学との交流から生まれたものです。

96年には、マレーシア・ジョホールバル市よりの招聘を受け、和太鼓の公演を行いました。以上の蓄積をベースに2003年より、アメリカ桜祭り公演が始まりました。

## 2. アメリカ桜祭り公演のはじまり

1999年6月、アメリカ・ペンシルバニア州・フィラデルフィアのThe University of the Arts主催の世界舞踊フェスティバルが開催されました。その際、フェスティバルに招聘を受け、玉川大学で舞踊を学んだ卒業生と共に公演を行いました。このフェスティバルは、世界各国から180の舞踊団体が集結し、2週間にわたって公演が行われ、玉川チームは、オープニングのガラコンサートに出演しました。

これを機にThe University of the Artsの舞踊学科との交流が始まり、2000年4月より2001年3月まで玉川大学より長期研修（サバティカル）の機会を得て、受け入れ先のThe University of the Artsで1年間の研修を行いました。

この期間に、フィラデルフィア近辺の大学を訪問し、歌舞伎舞踊（日本古典舞踊）のデモンストレーションとワークショップを実施し、受け入れ校のThe University of the Artsでは、週3回の舞踊の授業を担当しました。また日本舞踊公演も3回実施しました。訪問した大学・学校は、Swarthmore College、Temple University、Pennsylvania University、Villanova University、Westtown Schoolです。

この長期研修の間、創立者小原國芳と後継者小原哲郎の海外公演に対する熱いメッセージと海外公演の意義を痛切に感じました。学生の為に新たな海外公演の誕生を願い、これからの時代にどうすれば実現出来るかを考える毎日でした。そんな折、日米協会フィラデルフィアの理事の一人であるKazumi Tunne 女史と出会い、私の感じている事、やりたい事を話したところ、女史も日米協会が主催するフィラデルフィア桜祭りについて、アメリカにおける桜祭りはどのようなものが必要であるのか、またワシントンとは違ったフィラデルフィア独自の桜祭りは何か、毎年の桜の植樹や式典だけではない日本にちなんだ催し物、来場者が楽しめるものは何か、試行錯誤されている最中でした。

帰国後、小原芳明学長に長期研修の報告を行った折、海外公演を実現したい旨をお話ししました。学長は、「今は誰もが簡単に海外に行ける時代。昔のような大掛かりな学園あげての海外公演は今の

時代に合っていない。今は、さっと現地に行って、しっかり実績をあげて帰ってくるそんな海外公演でなければならない。桜祭りはアメリカ人が日本との親善を再確認し考えてくれる時期の一つでもある。その事を考慮に入れて計画してみなさい」とおっしゃいました。

私もこれまでの4年～6年間隔で行う海外公演ではなく、毎年出来る海外公演の実施が望ましいと考えていました。それは、1回だけの経験ではなく、2年続けて海外公演の経験を学生達に踏ませたかったからです。1年目は驚きと感動を与え、2年日以降は前年の経験を基に、前年よりも素晴らしい舞台を創りあげるという目標、更には後輩の指導も行いながら、責任を持って海外公演を経験する事が出来るからです。また大学としても、毎年行くことで、多くの方々に玉川大学を知って頂けるからです。場所は、アメリカの芸術に関心の高い、東海岸の都市を廻り、玉川の学生達と同じ世代のアメリカの学生が出会い、公演を通して文化交流をすることが重要と考えました。そして、これこそが小原國芳が言った、「宇宙時代に生きる若人は、地球は我らの故郷であるという大いなる気概をもつ事が必要。真の世界平和は、若き世代が自分の国を外に、広く世界に接し、交流する事により可能となる」という事の実践だと考えました。

小原哲郎は、1978年の『カナダ・アメリカ公演記録集』に寄せるメッセージに「私たちの本当の願いは、たとえ風俗習慣は異なっても人類みんなが共感出来る何かを見いだして頂きたいのです。この公演が、私たちと皆様との相互理解に一步近づくことと、皆様と同じこの地球上に住む日本の若人達のうちに、真の隣人を見いだして下さる事を、心から願ってやみません」と書いています。今こそこの言葉の真の意味を理解し、実現に向けていこうと思いました。

毎年行く為には、予算はもちろん、それだけの実績と受入れがなければ絶対に実現出来ません。しかし、まず始めなければ何事も結果がついて来ないため2003年4月に実施出来るよう2年の歳月をかけて練り上げました。2001年9月11日のテロ事件、2003年はイラク戦争勃発と多数の世情不安がありましたが、参加学生全てのご父母からの理解を得る事ができ、チームを「TAMAGAWA UNIVERSITY TAIKO & DANCE」と命名し、アメリカ公演へと旅立ちました。初年度は、男子学生18名、女子学生9名、引率2名の総勢29名でした。4月2日～4月14日に帰国の12泊14日の日程です。アメリカ・ペンシルバニア州・フィラデルフィアにある、Swarthmore College、The University of the Arts、Villanova University、University of Pennsylvania、Westtown School、フィラデルフィア桜祭にて計7回の公演を行いました。

### 3. アメリカの桜祭り

ワシントンD.C.では、1912年に桜祭りが始まりました。アメリカでは、歴史あるお祭りの一つです。100年前、約3000本の桜が日米両国の親善を願った先人の方々によって、ワシントンD.C.に寄贈されました。その桜は、ポトマック河岸の対岸に雄大に清楚に桜を咲かせています。その桜の開花時期に行われる桜祭りは全米に広がり、ロサンジェルス、シアトルなどの西海岸や東海岸では、ボストン、次にフィラデルフィア日米協会主催の桜祭が実施されました。

フィラデルフィアの桜祭は、1998年に初めて開催され、フェアマウントパークという広大な国立公園の一角に日本庭園と桜並木がある場所で実施されました。しかし、立地的な事もありますが、アメリカの人々にとって日本の花見的感觉はなく、それにまつわるイベントがなければ桜祭りは成立致しません。

2003年にフィラデルフィアでの桜祭りが第6回目を迎えた時に、我々の学生達の公演を披露する機会を頂きました。この時のフィラデルフィア日米協会も学生達の公演に対して、どのような事を披露

してくれるのか、フェスティバルに相応しいものやってくれるのかと大きな不安を抱えていた事と思います。当時の観客は200名程度でした。しかし、玉川の公演を観て下さった現地の方々の反応は、はっきりと次の年に表れました。フィラデルフィア日米協会によると、2004年には、観客が約1500名になり、2005年には、約5000名、2006年には、約7500名、2007年には、約3000名（この年は全日雨天でした）、2008年からは推定ではなく入場券が配付されるようになり、ほぼはっきりとした観客数がわかり、約1万5000名、2009年、2010年、2011年、2012年、013年は2万名を超える数となっています。

フィラデルフィア桜祭りでの2年間の実績を受け、桜祭りの本場であるワシントンD.C.の桜祭り協会から招聘を受け、2005年からは、ワシントンD.C.桜祭りパレードに参加する事が出来るようになりました。その際、マクドナルド社が我々のスポンサーとなって山車の手配や滞在費の一部を寄付して下さい、このパレードは、ホワイトハウスとワシントンモニュメントの間にある幅広いコンステーション道路7thから17thまでの10ブロックをパレード致します。道路の両側には毎年約7万人以上もの観客がパレードを楽しんで下さいます。玉川大学は山車に乗り太鼓の演奏や踊りを踊りながらパレードします。また、この参加に伴い、パレード前日には、スミソニアンフリー美術館前広場やワシントンモニュメント前のステージでの公演とケネディーセンターのミレニアム劇場で公演を行える年もあり、観客席数350名の中、立ち見席には1500名以上もの観客が見守ってくれています。

2008年には我々の団体に対し、優秀な団体に対する感謝状がワシントン桜祭協会から授与されました。

10年の歩みとなったアメリカ桜祭り公演は、年々規模が大きくなり、様々な場所で公演が出来る様になりました。桜祭りのみならず、NBAプロバスケットボールの試合のハーフタイム出演やMLBメジャーリーグのオープニングなどにも出演しました。

しかし、一貫して大切にしていることがあります。我々の公演は、全ての公演終了後に観客の皆様を送り出す事にしています。それは、観客の皆様の反応を生で感じる事が出来るからです。我々は、プロフェッショナルではありません。学生ですので、ご来場頂いた観客の皆様に「来て下さった事、観て下さった事」への感謝をするためです。そこで現地の方々の目を見ながら握手を交わし、ハグをしてくれる観客の方もあり、言葉を交わす事により、日本人の学生の中に大きな感覚と感動、そして人と人との交流とは何かを理解し感じる事が出来るのです。

また大学での公演後にはレセプションが開かれ現地の学生と玉川の学生同士の交流が盛んに行われました。同じ年代の学生達との交流と共有感覚の経験です。「公演」という芸術を媒体として、学生ひとりひとりが現地の学生やスタッフとの親善交流を交わすのです。

2013年10月、フィラデルフィア日米協会設立20周年記念式典において、これまでの玉川大学 Taiko&Dance の実績が認められ、玉川大学と学生達に文化大使賞が授与されました。

#### 引用・参考文献

- |                 |         |      |
|-----------------|---------|------|
| 『メキシコ親善旅行記』     | 玉川大学出版部 | 1961 |
| 『ヨーロッパ公演旅行記』    | 玉川大学出版部 | 1969 |
| 『南ギリシャに行く』      | 玉川大学出版部 | 1973 |
| 『アメリカ・カナダ公演記録集』 | 玉川大学出版部 | 1980 |
| 『イギリス公演記録集』     | 玉川大学出版部 | 1982 |

朝日新聞『天声人語』

2012.3.30